

神戸市療育ネットワーク会議「第8回 就学前の発達のご案内になる子どもの支援体制検討会議」

(日時)令和5年3月9日(木)15:00～
(場所)センタープラザ西館6階 9号会議室

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 題

(1) 神戸市の発達のご案内になる子どもの相談支援体制について

(2) サポートブックの普及啓発について

3. 閉会

資 料

資料1 発達相談支援体制の充実について

資料2 発達相談支援体制の充実(イメージ)

資料3 特別支援教育相談センターの状況

資料4 令和5年度 就学相談に関するチラシ(保護者配布用)

資料5 個別の就学相談を利用した場合の情報の流れ

資料6 ネットワークプラン様式(検討案)

資料7 サポートブックの普及啓発について

資料8 サポートブックの概要

資料9 サポートブック 様式

資料10 「サポートブック」「ネットワークプラン」の違いと活用について

資料11 第7回 就学前の発達のご案内になる子どもの支援体制検討会議(令和4年11月10日)の議事要旨

[参考] 神戸市療育ネットワーク会議「就学前の発達のご案内になる子どもの支援体制検討会議」(概要)

「就学前の発達のご案内になる子どもの支援体制検討会議」検討課題と実施状況

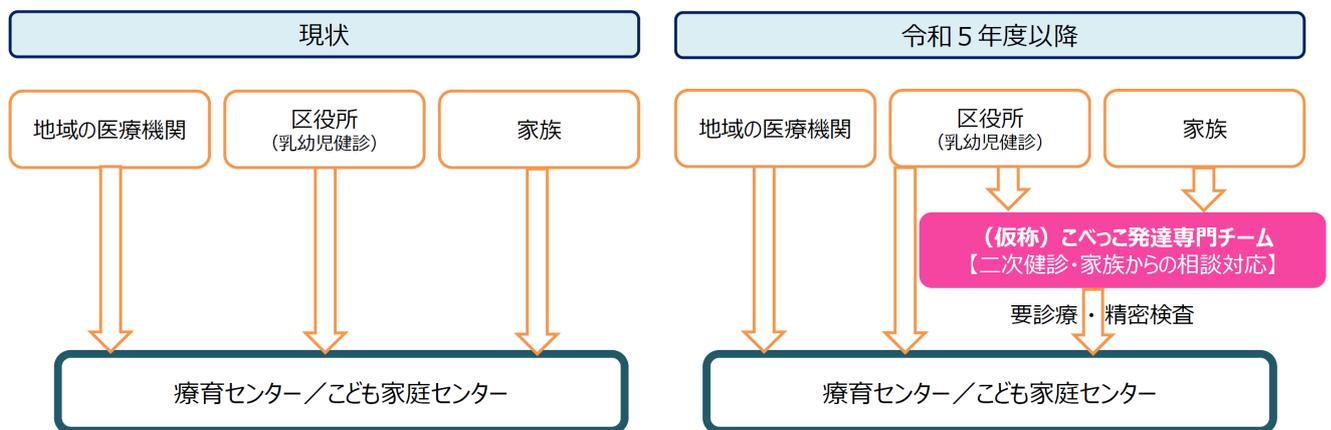
発達相談支援体制の充実について

【背景】

- ・子どもの発達に関する相談は、各区役所や地域の医療機関、こども家庭センターや療育センターなどの関係機関で対応している。
- ・発達障害に対する社会の理解が広がり、こども家庭センターでの発達相談・検査、療育センター診療所での診察・訓練など、専門機関の利用を希望される保護者が増加している。
- ・そのため、こども家庭センターにおける療育手帳の取得等に必要となる検査や、療育センターにおける診察にかかる待機期間が長期化しており、抜本的な対策が求められている。

【事業の概要】

子どもの発達相談支援体制を充実させ、早期に診察や検査を受けられるように、医師・保健師・心理士等からなる（仮称）「こべっこ発達専門チーム」を新設し、未就学児を対象に、①乳幼児健診後の二次健診、②家族からの相談対応を、垂水区・西区でモデル的に実施する。専門チームで得られた知見やノウハウを横展開し、区の相談機能や乳幼児健診の充実を図る。



① 二次健診

- ・乳幼児健診（1歳6カ月児・3歳児）の後、発達のフォローが必要な子どもを対象に、小児の発達専門の医師による二次健診を実施し、専門的見地から助言を行い、子どもの発達の特性やニーズに沿った適切な支援先へつなぐ。
- ・なお、より詳しい診療や検査が必要な場合は、専門医療機関や精密検査機関へつなぐ。

② 家族からの相談対応

- ・保健師・ケースワーカー・心理士が、面談・簡易検査を行い、専門的見地から助言を行い、子どもの発達の特性やニーズに沿った適切な支援先へつなぐ。
- ・なお、より詳しい診療や検査が必要な場合は、専門医療機関や精密検査機関へつなぐ。

- （仮称）「こべっこ発達専門チーム」の活動エリア
垂水区及び西区（西部療育センター対象区域）

○実施スケジュール（予定）

- 令和5年4～9月 事業開始に向けた事前準備
- 10月 二次健診・家族からの相談対応開始

【事業の効果】

- ・子どもの成長や発達が気になる家族からの相談に対し、（仮称）「こべっこ発達専門チーム」が対応することで、家族の不安や悩みを軽減し、適切な支援先へ早期につなぐことができる。
- ・（仮称）「こべっこ発達専門チーム」で得られた知見やノウハウを全市展開することで、子どもの発達に携わる地域の関係機関全体の対応力が上がり、市民にとって、より身近な地域で相談や支援を受けることができるようになる。

令和 5 年 3 月 9 日
神戸市療育ネットワーク会議

特別支援教育相談センターの状況

1 就学相談

(1) 就学先の選択（5歳児の就学相談）

小学校等が実施する就学相談の前に、センター職員が就学説明会・個別の就学相談会を実施し、通常の学級や特別支援学級、特別支援学校のどの就学先が望ましいのか、提供可能な合理的配慮の内容等など、本人・保護者の不安や疑問に答えながら、特別な支援の必要性を判断できるよう十分な情報提供を行い、適切な就学に繋げた。

① 就学説明会

4月19日より来年度の就学に向けた学びの場を選択する際の参考にしていただくための就学説明の動画を Web 配信した。同日に神戸市総合教育センター10階ホールにて、Web 配信を見ることができない方のために Web 配信と同様の動画を見ていただく場を設けた。当日は25名の参加者があり、1名には手話通訳の派遣も行った。

② 個別の就学相談

5月6日から7月15日までの期間を Web での相談申込期間とし、それ以降は随時電話で申し込みを受け付けた。5月6日から5月16日までは3つの療育センターで、その後は全市6会場にて行った。（神戸市総合教育センター、しあわせの村、有野小学校、糀台小学校、東灘区文化センター、竜が台小学校）

療育センターの実施状況

(人)

まるやま	ひまわり	のぼら	合計
30	9	23	62

6会場の実施状況 1月末時点

KEC	しあわせの村	有野小	糀台小	東灘区文化C	竜が台小学校	合計
179	14	10	34	40	19	296

(2) 学びの場の変更

就学後においても子供の育ちを見通しながら柔軟に学びの場を見直す必要があり、学校園からの特別支援学級への入級や特別支援学校への転学等についての相談に応じた。（令和5年1月末時点で14件）

2 教育相談

学校や保護者から、学習や生活に不安のある児童生徒についての相談を受け、センター職員が学校を訪問して学校生活の状況を確認した後、学校に対して支援の方向性の提案や具体的な指導方法の助言を行うほか、必要に応じて、センターでの検査・面談、医師による教育相談を実施し、保護者に対して家庭での接し方等を助言した。

(実施状況)

相談実績累計（令和4年4月～令和5年1月末）

- ・全相談件数 3,288 件 内訳（幼児 247 件、小学校 2,639 件、中学校 384 件、その他 18 件）
- ・相談受付児童生徒数 645 名
- ・検査面談件数、257 件（その内医療教育相談実施 89 件）

令和6年度就学予定のお子様

令和5年4月18日(火)～

しゅうがくせつめいかい

就学説明会を

どうがはいしん

動画配信します!



通常の学級、特別支援学級、特別支援学校、通級指導教室など、さまざまな学びの場についての説明を行います。

神戸市ホームページをご覧ください。

Q「神戸市 就学相談」で検索

スマートフォンやパソコンでご覧になれない方のために

同じ動画を会場で流します。(質疑応答等の時間はございません。)

日時: 令和5年4月18日(火)10:30～12:00

受付開始10:00 定員約80名

場所: 神戸市総合教育センター6階 602号室
神戸市中央区東川崎町1-3-2

駐車場はありませんので、周辺施設の駐車場をご利用ください。
託児施設はありません。

申込み方法 神戸市ホームページから申し込みサイトに移動します。(3月20日から申込開始)

電話での問い合わせ先 神戸市教育委員会事務局学校教育部特別支援教育課

特別支援教育相談センター

☎078-360-2160

気になること、相談してみませんか？



小学校に行くの、ドキドキするなあ



小学校に入学してから、友達とうまくやっていけるかな…。

1年生になったらがんばるぞ



特別支援学校と特別支援学級はどんな違いがあるのかなあ

まずは、就学説明会の動画をご覧ください。

就学先が決まるまでの流れ(目安)



個別の就学相談(5月中旬~7月下旬)

神戸市ホームページをご覧ください。 [Q「神戸市 就学相談」で検索](#)



● **スマホで申込** 相談日時や場所はスマホで申し込めます。

4月18日から受付を開始します。



● 個別に相談することで、より具体的にお子さまの学校生活のイメージがもてます。

※この就学相談において就学先が決定されることはありません。

個別の就学相談の内容例

特別支援学校に関すること

特別支援学級に関すること

通常の学級に関すること

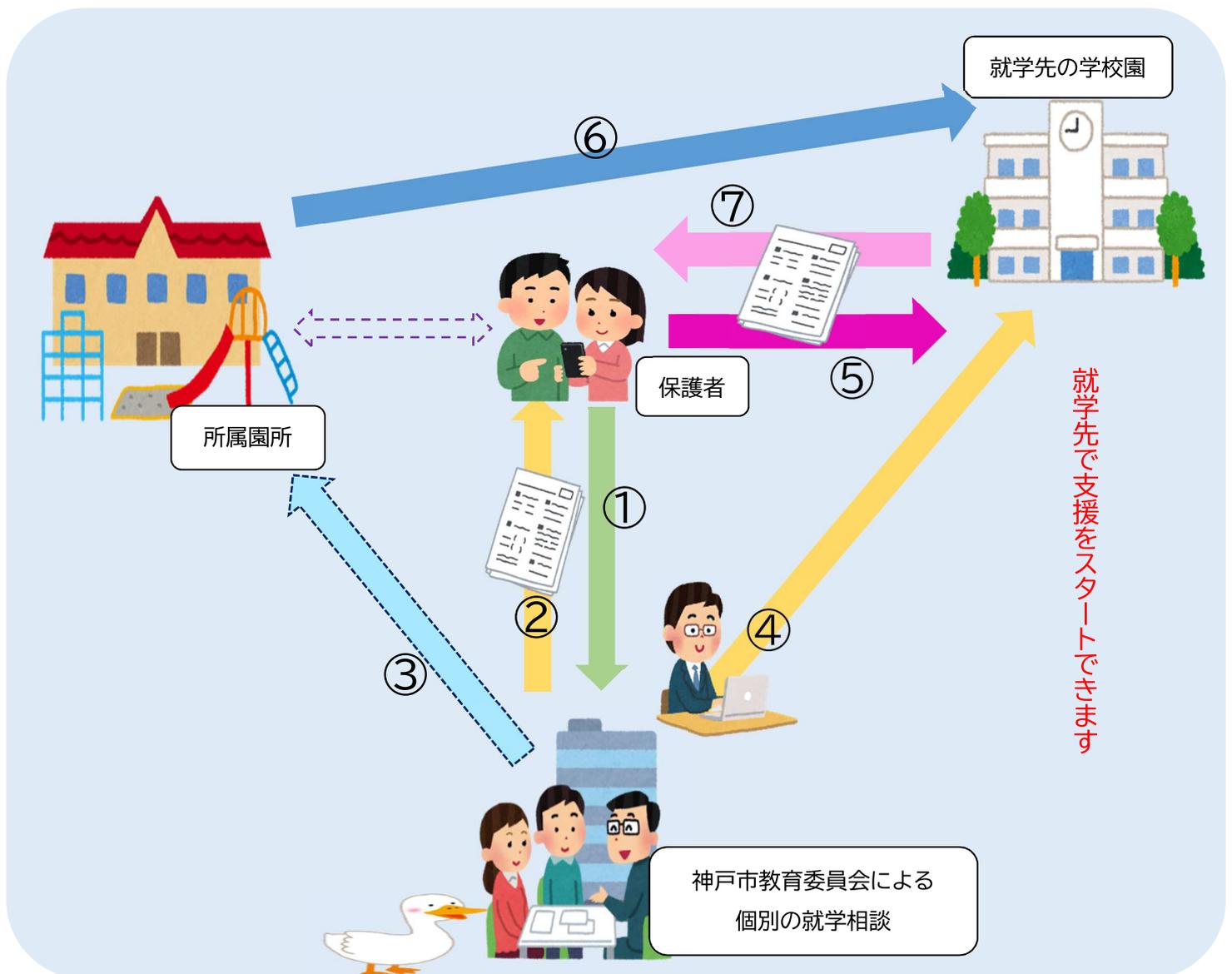
医療的ケアに関すること

通級指導教室に関すること



相談の担当者は、教育委員会指導主事(教員)、インクルーシブ相談員(元校長先生)、通級指導教室担当者(幼稚園教員)などです。

個別の就学相談の申込から就学先への情報の流れ



- ① 保護者がスマートフォンやパソコンから個別の就学相談を申し込みます。(4月～)
- ② 申し込みの際に入力した子供の基本情報をネットワークプランの書式に落とし込み、就学相談時に印刷したものを保護者に渡します。(5～7月頃)
- ③ 保護者が希望した場合、就学相談の相談員が所属している園所に訪問し、子どもの様子を確認します。
- ④ 教育委員会が②のデータと面談記録を就学先にデータ送付します。(5～7月頃)
- ⑤ 就学時健診、学校見学などで保護者が②を持参し、就学先の学校園に渡します。(6～11月)
- ⑥ 在園所が就学先へ要録を渡します。(3月)
- ⑦ 更新すべき情報があれば、就学先で追記をし、印刷したものを保護者に渡します。(6～3月)



令和5年3月9日（神戸市療育ネットワーク会議）
教育委員会事務局特別支援教育課

個別の教育支援計画 (ネットワークプラン)

記入日(西暦)

年

月

日

記入者

フリガナ					性別			生年月日	西暦			
名まえ					性別			生年月日	年	月	日	歳
保護者名					連絡先 (TEL)					学校園名		
住所	区								家族構成			
診断等					診断日				診断機関 (診断者)			
					診断日							
	手帳の種類	療育手帳	A	B1	B2	精神障害者保健 福祉手帳	級	身体障害者手帳	種	級	手帳なし	
	最新の検査種類							検査年月日	年	月	日	
	検査結果							検査機関				
医療・療育の 情報	医療機関						担当医			服薬の 状況や通院 の頻度等		
							担当医					
							担当医					
	療育機関 通級指導教室 等						担当			通所の頻度 療育の内容 通級の期間 等		
							担当					
							担当					
	放課後等 デイサービスの 利用 等		事業所名					利用している曜日				
			事業所名					利用している曜日				
			事業所名					利用している曜日				
			事業所名					利用している曜日				
その他 習い事等												
将来の希望												
今年の目標	(キャリアパスポートとして本人または保護者・担任が記入)											

令和5年3月9日
福祉局障害福祉課（発達障害者支援センター）

サポートブック普及・啓発について

1. サポートブックの概要

- 保護者が、子どもの成長の様子を記録し、家族以外の人(=支援者)に関わってもらうときに、「子どもの様々な情報」を知ってもらうためのツール。
- 支援者からの視点での情報を加えることで、支援者と保護者とのコミュニケーションツールとしても役立ち、保護者自身も、これまで気づかなかった子どもの一面に気づき、自らの子どもとのかかわりを見直すきっかけとなる効果がある。
- 平成19年度に作成した神戸市版を、令和3年度に使いやすく改訂。記入様式にチェックボックスを増やすなど他都市での好事例を参考に、関係者の意見も取り入れてリニューアル。PCで直接入力できるExcel版を神戸市HP上に掲載。
<https://www.city.kobe.lg.jp/a86919/kosodate/sodan/hattatsushogai/siryo.html>
- 令和5年度「神戸っ子 すくすくハンドブック」(母子手帳副読本)にて紹介。



2. サポートブックの内容

- 対象年齢：幼児から小学生低学年（概ね3歳～9歳）
- 必要なときや場所、目的に応じて、支援者と共有する内容を調節できるページ構成。
 - 「本人の情報（緊急連絡先や医療的なケア等の情報）」
 - 「好きなことや苦手なもの」「身体状況（疾患やアレルギーの有無等）」
 - 「コミュニケーション（あいさつ、理解・聞くこと、表現・話すこと）」
 - 「人との関わり（家族関係、大人と、子ども同士、家族以外の人、初めての人）」
 - 「活動（集中する、同時の作業、体を使う運動、手先の細かな作業）」
 - 「集団での様子」、「感覚・行動」、「パニックや危険なこと」、「日常生活」など。

3. 令和4年度の取り組み

- 公立・民間の児童発達支援センターを利用中の保護者向け研修を実施。
- サポートブックの存在を周知し、保護者への助言等を行える人材を養成するための「支援者向け研修」を公立・民間の児童発達支援センター職員を対象に実施。
- 発達障害者支援センター事業の「家庭療育講座（ペアトレ）」でのサポートブック作成支援など。

4. 令和5年度の取り組み（案）

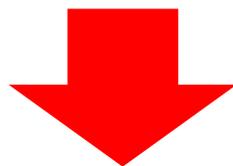
- サポートブックの存在を周知し、その活用を促していくとともに、保護者等へ助言等を行える支援者を養成するため、各区役所（10か区）を拠点に「保護者向け研修」および「支援者向け研修」を開催する。
 - ・対象：就学前の保護者および支援者
幼稚園、保育所（園）、認定こども園、児童発達支援センター・事業所等に通所・通園する発達の気になる子どもの保護者、すこやか保育を利用する保護者・支援者（就学前の児童3～6才児・所属の有無は問わない）
 - ・研修内容：サポートブックの理解、サポートブックの書き方など(集合形式、グループワーク)

サポートブック

○ サポートブックって何？

サポートブックは、子どもを預かってもらう場合（保育所・園、幼稚園、学校、学童保育、講演会での託児など）、預かる人（支援者）に知っておいてほしい「子どもの情報」（困ったことが起こった場合の対応方法等）をまとめた冊子です。

サポートブックを支援者に渡すことで、初めての場所や初対面の人とでも、子どもが安心して楽しく過ごすための大きな助けになります。



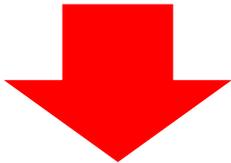
現在行っている支援を、新しい支援者に継続するための
コミュニケーション・ツールです



こどもの様子をよく知ること

- 幼少時期の様子
- どんな支援を受けてきたのか？
- パニックへの対処法は？
- 落ち着くものはないのか？
- 苦手なものは何か？

ヒントはどこに？



サポートブックの作り方・使い方ガイド

サポートブック（改訂）
の活用、情報の共有
（家族、支援者、
医療機関など）



サポートブックについて

サポートブックって何？

サポートブックは、子どもは家庭以外の人と関わってもらうときに、関わってくれる人（支援者）に対しては「子どもの様々な情報」をまとめた冊子です。サポートブックも支援者へ送ることで、新しい場所や知らない人に対しても、子どもが安心して過ごすための大きな助けになります。また、保護者にとっても支援者に子どもの情報を細かく説明することなく、伝えることができます。

作るのとは？

サポートブックを作成・管理するのは保護者です。また、携わってもらった支援者からの情報をおえることで、保護者と支援者とのコミュニケーションツールとしても役に立ちます。

サポートブックの項目

サポートブックには、「本人の情報」、「コミュニケーション」、「人との関わり」、「活動」、「感覚・行動」、「ヒューマン・危険なこと」、「日常生活」、「伝えたいこと」の項目があります。書き方の見本を参考に、記入できるようにしています。

使い方のポイント

1. 用途に応じて内容を選びましょう
このサポートブックは、必要なことや場所、目的に応じて、支援者に送るページを調整できます。用途がわかる必要に応じて、送る冊子に「この情報は使える！サポートブックでいい！」と思われる内容を選びましょう。
2. コミュニケーションツールとして使ってみましょう
家と外での様子が全く同じお子さまは、あまりいないのではないのでしょうか？家内での様子とした「家族のヒストリー」を伝え、支援者からも「家族のヒストリー」を聞いてサポートブックに追加するなど、作ったサポートブックは、送るだけでなく、サポートブックを用いて、支援者と話を広げていきましょう。

■本人の情報		記入日	確認日時	年月 × 日	
氏名	こうべ 春	年齢	5歳	性別	男・女
住所	神戸市中央区南長狭3-4-1	生年月日	年 月 日	学年	小学 × 年 × 月 × 日
医療等で扱われた病名・診断名		呼び名		呼び名	
希望している連絡先		子どもが多くの人		呼ばれている呼び	
名でかまいません		名前を教えてください。		呼ばれたい名前	
医療ケアの情報		アレルギー		アレルギー	
<input type="checkbox"/> 食物アレルギー <input type="checkbox"/> 吸入 <input type="checkbox"/> 皮膚接触 <input type="checkbox"/> 経腸チューブ <input type="checkbox"/> 薬物 <input type="checkbox"/> 導尿 <input type="checkbox"/> 人工呼吸器 <input type="checkbox"/> その他		かかりつけ医		写真の人の名前が よくわかるものが いいでしょう。	
<input type="checkbox"/> 日本地名 正産科名 産科名 神戸こどもクリニック <input type="checkbox"/> 日本地名 産科名 <input type="checkbox"/> 日本地名		緊急連絡先		緊急連絡先	
緊急連絡先	花子	関係	母	番号	(090)△△△ - 0000
緊急連絡先	太郎	関係	父	番号	(090) ××× - 00△△
緊急連絡先		関係		番号	—
所属・学校	神戸市立こども園				
学年	年	組	番号	内務係	
住所	神戸市中央区こと町1丁目1-1				

※神戸市のホームページからダウンロードできます
【検索】神戸市 サポートブック

サポートブックの2つの側面

○ 記録としてのサポートブック

- 日々の関わりの中で新しい支援を試して、その支援がうまくいったら記録しましょう
- 今実際に行っていることを、簡単なメモからでも始めてみましょう

⇒ 一般様式（項目を自由に設定できます）



○ 伝達・コミュニケーション用ツール

- 支援者に必要な情報をサポートブック（記録）から選んで使いましょう
- 場面（託児、小学校での面談など）によって使う項目は変わります



サポートブックに何を書く？

○園、学校など、日中、定期的に預ける施設へ

- 日中子どもが行う行動を想像しながら、項目を考えましょう
- 関わり方は、先生と話し合いながら、修正加筆しましょう

○講演会での託児や、祖父母やお友達に預けるときなど、一時的な預かりのときに

- それぞれに必要なと思う項目を作成しましょう

○家族と支援を共有したいときに

- 共有したい関わり方の項目を作成しましょう



* 日頃から子どもの様子を見て、うまくいく声かけや工夫、関わりを知り、大人がどんな手伝いをしているか意識しておくことが大切です。



サポートブックの内容

○ 本人ファイル

- 個人情報に関するファイル
氏名・呼び名・年齢・生年月日・性別・写真・住所
緊急連絡先・学校など
- すべての場面で必要な基本ファイル
特に配慮のいる状況とその対応
好きな遊びや得意なこと・嫌いな遊びや苦手なこと
お金の管理
- 場面に応じて提供するファイル
診断名・本人の特徴
服薬・診断検査の記録・各種手帳

○ 一般様式

○ コミュニケーションのポイント

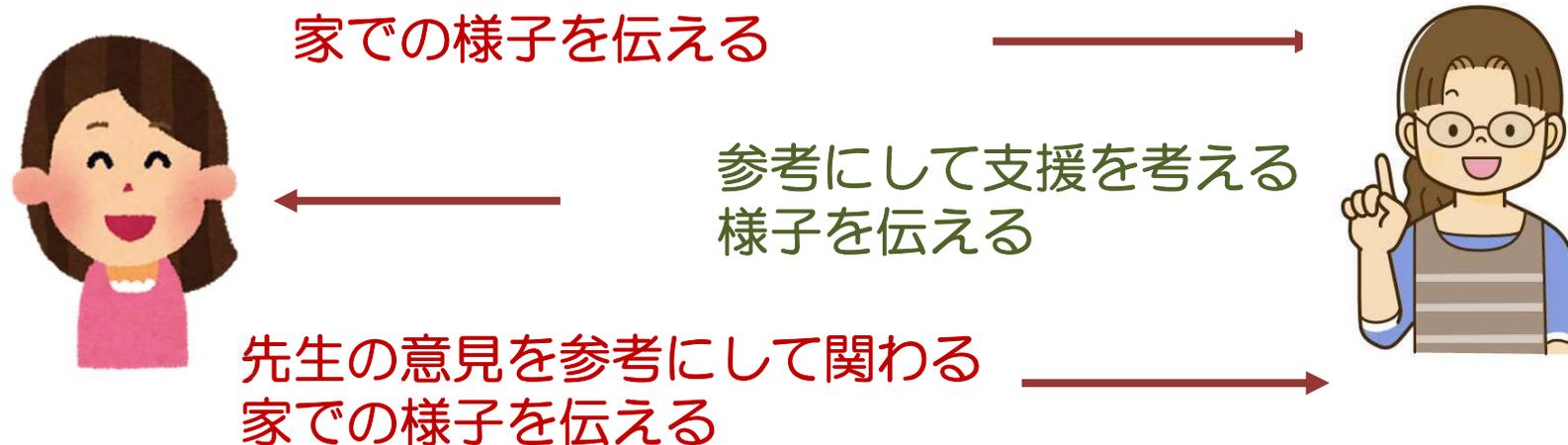


サポートブックを使った 先生とのコミュニケーションのポイント

先生と協同関係を築きましょう

『先生はもう一人の問題解決者』

- 学校の悩み・子どもの悩み(共通目標)を共に解決する
- お互いに相手の話を聞き、取り入れ、一緒に考える



記入日 年 月 日

記入者

■本人の情報

名前	ふりがな			年齢	性別
					男・女
住所	生年月日				年月日生
					年月日生
病院等で告げられた疾患名等				呼び名	
医療的ケアの有無				写真	
<input type="checkbox"/> 在宅酸素 <input type="checkbox"/> 吸引 <input type="checkbox"/> 吸入 <input type="checkbox"/> 気管切開 <input type="checkbox"/> 経鼻チューブ <input type="checkbox"/> 胃ろう <input type="checkbox"/> 導尿 <input type="checkbox"/> 人工呼吸器 <input type="checkbox"/> その他					
かかりつけ医					
		<input type="checkbox"/> 主治医名	病院名		
		<input type="checkbox"/> 主治医名	病院名		
		<input type="checkbox"/> 主治医名	病院名		
緊急連絡先	第1順位	氏名	関係	番号	—
	第2順位	氏名	関係	番号	—
	第3順位	氏名	関係	番号	—
在籍園・学校	園・学校名				
	学年	年	組	組	担任
	住所				電話



KOBE

プロフィール

ふりがな			
名前			
呼び名			
血液型		性別	



好き/得意なこと・もの	
落ち着くもの・こと・場所	
苦手なこと・もの	

<身体について>

・目
 良好 注意が必要 → _____

・耳
 良好 注意が必要 → _____

・鼻
 良好 注意が必要 → _____

・口腔
 良好 注意が必要 → _____

・手や腕
 良好 注意が必要 → _____

・足
 良好 注意が必要 → _____

・皮膚
 良好 注意が必要 → _____

・その他

コミュニケーション

あいさつ	<input type="checkbox"/> 自分から	<input type="checkbox"/> 促しがあればできる
	<input type="checkbox"/> しぐさ・ジェスチャー(頭を下げる、手を挙げる)はできる	
	<input type="checkbox"/> できない	
詳細やサポートの方法など		

要求する (ほしい、したい)	<input type="checkbox"/> できる	
	<input type="checkbox"/> 難しい	
	→ <input type="checkbox"/> 言葉は出るが伝わりにくい	<input type="checkbox"/> 単語程度
	<input type="checkbox"/> しぐさや表情のみ	<input type="checkbox"/> 泣く・奇声を出す
	<input type="checkbox"/> 行動で示す	<input type="checkbox"/> 固まる・だまる
詳細やサポートの方法など		

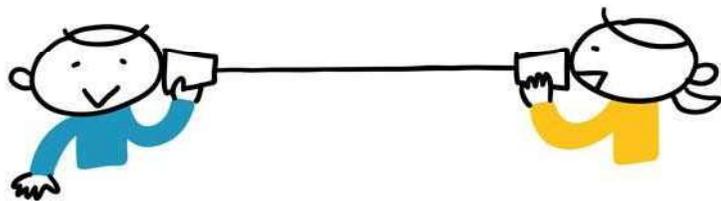
要求する (拒否、SOS)	<input type="checkbox"/> できる	
	<input type="checkbox"/> 難しい	
	→ <input type="checkbox"/> 言葉は出るが伝わりにくい	<input type="checkbox"/> 単語程度
	<input type="checkbox"/> しぐさや表情のみ	<input type="checkbox"/> 泣く・奇声を出す
	<input type="checkbox"/> 行動で示す	<input type="checkbox"/> 固まる・だまる
詳細やサポートの方法など		



コミュニケーション

理解・さくこと	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> サポートが必要 → <input type="checkbox"/> 二語文程度で <input type="checkbox"/> 単語程度で <input type="checkbox"/> 指差しやジェスチャー <input type="checkbox"/> 写真や絵
	詳細やサポートの方法など <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

表現・話すこと	特徴: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり → <input type="checkbox"/> 吃音 <input type="checkbox"/> 独り言 <input type="checkbox"/> 発音が不明瞭 <input type="checkbox"/> 早口 <input type="checkbox"/> 声が小さい <input type="checkbox"/> 声大きい <input type="checkbox"/> 言われたことを繰り返す <input type="checkbox"/> その他、独特の表現
	詳細やサポートの方法など <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>



人とのかかわり

家族関係	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 気になることがある <hr/> <hr/>
------	--

初めての人と	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 気になることがある <hr/> <hr/>
	詳細やサポートの方法など <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

大人と	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 気になることがある <hr/> <hr/>
	詳細やサポートの方法など <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

子ども同士で	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 気になることがある <hr/> <hr/>
	詳細やサポートの方法など <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

<気になることの例>

人見知り／緊張が高い／視線が合いにくい／相手との距離が近い／積極的／受動的

<サポートの例>

そばで見守る／声かけ／一緒に／ゆっくり待つ



活動

注意・集中	集中する: <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> サポートがいる ----- -----
	見つける・探す: <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> サポートがいる ----- -----
	同時に作業する: <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> サポートがいる ----- -----
	切り替え: <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> サポートがいる ----- -----

課題への取り組み	着席: <input type="checkbox"/> 1人でできる <input type="checkbox"/> 姿勢が崩れる <input type="checkbox"/> 声かけて維持できる <input type="checkbox"/> 誰かと一緒にできる <input type="checkbox"/> その他 ----- -----
	発表: <input type="checkbox"/> 1人でできる <input type="checkbox"/> 誰かと一緒に <input type="checkbox"/> 少し時間がかかる <input type="checkbox"/> 言うことが決まっていればできる <input type="checkbox"/> その他 ----- -----

遊び・過ごし方	特徴: <input type="checkbox"/> 集団で過ごす <input type="checkbox"/> 1人で過ごす <input type="checkbox"/> 同じ遊びを続ける <input type="checkbox"/> 遊びや場所が様々に変わる <input type="checkbox"/> その他 ----- -----
---------	---

<サポートの例>

声かけ／指差し／絵カード／体に触れる／アラームを鳴らす／視線やジェスチャーで合図／見守る



活動

運動・作業	体全体を使う運動: <input type="checkbox"/> 得意 <input type="checkbox"/> サポートが必要 ----- -----
	手先の細かな作業: <input type="checkbox"/> 得意 <input type="checkbox"/> サポートが必要 ----- -----

行事	<input type="checkbox"/> 1人で参加できる <input type="checkbox"/> サポートが必要 ----- -----
----	--

集団での様子

指示・ルール理解	指示の出し方: <input type="checkbox"/> 全体指示で <input type="checkbox"/> 個別の声掛けで <input type="checkbox"/> その他 ----- -----
詳細やサポートの方法など ----- -----	

移動・整列	<input type="checkbox"/> 1人でできる <input type="checkbox"/> 誰かと一緒に <input type="checkbox"/> 少し時間がかかる <input type="checkbox"/> その他 ----- -----
詳細やサポートの方法など ----- -----	

<サポートの例>

見本がある／体をもって誘導／そばで声かけする／見守り／真似をする



感覚 / 行動

敏感・鈍感なもの	敏感なもの: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり → <input type="checkbox"/> 音 <input type="checkbox"/> におい <input type="checkbox"/> 肌触り <input type="checkbox"/> 光 <input type="checkbox"/> 痛み <input type="checkbox"/> 味 <input type="checkbox"/> その他 ----- -----
	鈍感なもの: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり → <input type="checkbox"/> 音 <input type="checkbox"/> におい <input type="checkbox"/> 肌触り <input type="checkbox"/> 光 <input type="checkbox"/> 痛み <input type="checkbox"/> 味 <input type="checkbox"/> その他 ----- -----

行動の切り替え	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> サポートがいる → <input type="checkbox"/> 声かけ <input type="checkbox"/> アラーム <input type="checkbox"/> 体に触れる <input type="checkbox"/> 絵カード <input type="checkbox"/> 視線やジェスチャーで合図 <input type="checkbox"/> その他
詳細やサポートの方法など ----- ----- -----	

こだわり (物・行動など)	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ----- -----
詳細やサポートの方法など ----- ----- -----	

パニック・危険なこと

〇〇な時 〇〇があると	どうなる	工夫できること 練習していること
----- ----- -----	----- ----- -----	----- ----- -----



日常生活

食事	手段: <input type="checkbox"/> おはし <input type="checkbox"/> スプーン <input type="checkbox"/> フォーク <input type="checkbox"/> 手づかみ
	好きな物: _____ 嫌いな物: _____

トイレ	様式: <input type="checkbox"/> 洋式のみ <input type="checkbox"/> 和式のみ <input type="checkbox"/> 両方OK
	動作: <input type="checkbox"/> 1人でできる <input type="checkbox"/> 声かけが必要 <input type="checkbox"/> サポートが必要 尿・便意: <input type="checkbox"/> 自分で分かる・言える <input type="checkbox"/> 声かけが必要 <input type="checkbox"/> 分からない・言えない

身じたく	<input type="checkbox"/> 服の用意からできる <input type="checkbox"/> 用意があればできる
	<input type="checkbox"/> 動作にサポートが必要 <input type="checkbox"/> 仕上げのチェックが必要

用意・物の管理	<input type="checkbox"/> 1人でできる <input type="checkbox"/> 声かけや指示で <input type="checkbox"/> 見本や手がかりで <input type="checkbox"/> 見守りで
	<input type="checkbox"/> 忘れ物が多い <input type="checkbox"/> 片付けが苦手 <input type="checkbox"/> 物の扱いが雑になる

外出	交通機関: <input type="checkbox"/> 1人で乗れる <input type="checkbox"/> サポートがいる
	公共の場: サポートが <input type="checkbox"/> いない <input type="checkbox"/> いる (店、映画館など)

日常生活

睡眠	寝る時間: _____ 起きる時間: _____
	気になること: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり → <input type="checkbox"/> 寝付きにくい <input type="checkbox"/> 途中で起きる <input type="checkbox"/> 夜尿がある <input type="checkbox"/> その他: _____
詳細やサポートの方法など	

セルフケア	手洗い: <input type="checkbox"/> 1人でできる <input type="checkbox"/> サポートが必要
	うがい: <input type="checkbox"/> 1人でできる <input type="checkbox"/> サポートが必要
	歯磨き: <input type="checkbox"/> 1人でできる <input type="checkbox"/> サポートが必要
	体調に気付く・伝える: <input type="checkbox"/> 1人でできる <input type="checkbox"/> サポートが必要
	服薬: <input type="checkbox"/> 1人でできる <input type="checkbox"/> サポートが必要

<サポートの例>

そばで見守る／声かけをする／一緒にする／ゆっくり待つ
絵カードやイラストを見せる／視線やジェスチャーで知らせる



サポートブックとネットワークプランの違いと活用について

○サポートブックとネットワークプランの違いと活用

名称	サポートブック	ネットワークプラン（個別の教育支援計画）
担当課	福祉局障害福祉課	教育委員会事務局特別支援教育課
① 目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の有無にかかわらず、発達が気になる子どもについて、保護者以外の人（親族、支援者）が関わる時に、子どもの情報を伝えるためのツール ・ 保護者と支援者とのコミュニケーションツール ・ 子どもの成長の記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある子どもについて、本人・保護者、関係者（学校）で情報共有するためのツール ・ 障害のある子どもの教育的ニーズの整理と長期的で的確な支援を、小学校から高校卒業（特別支援学校含む）まで校種を超えてつないでいく
②対象児童	発達が気になる子ども（診断の有無は問わない）	特別支援学校・特別支援学級・通級指導および通常学級在籍者。保護者がネットワークプラン作成を希望する場合（診断の有無は問わない）
③対象年齢	概ね3歳～9歳（就学前～小学校低学年）	5歳～18歳（就学前～小・中・高校）
④作成 （任意・必須）	（任意）	（必須） <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学前に特別支援教育相談センターによる個別の就学相談を受けた方（5歳児の保護者） ・ 特別支援学校、特別支援学級、通級指導を利用する方 （任意） <ul style="list-style-type: none"> ・ その他学校が特別な支援を必要と判断した場合
⑤内容	本人の日常生活に関する情報、保護者が行っている子どもの特性に応じた関わり方など ◆具体例： 本人の基本情報、コミュニケーション、人とのかかわり方、活動、感覚・行動、パニック・危険なこと、日常生活、伝えたいことなど	障害のある子どもの教育的ニーズの整理のために必要な情報（教育だけでなく医療や福祉など、関係機関との連携のための情報を含む） ◆具体例： 本人の基本情報、医療・療育の情報、将来の希望、障害による困難な状況、支援の内容（合理的配慮）、成育歴、相談歴など
⑥作成者	保護者が作成	保護者と学校が作成
⑦作成方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市ホームページに掲載のサポートブックPDFをダウンロードし手書き、または、エクセルシートをダウンロードし入力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の就学相談を受けた方： e-KOBEを活用し、保護者がスマホやパソコンから入力（教育委員会へ提出） ・ 上記以外の方：学校がエクセルシートに入力
⑧見直し時期	概ね3か月～1年（成長に合わせて）	状況の変化があった際は都度。基本は4～5月
⑨情報管理者	保護者	教育委員会（小学校・中学校・高校） ※卒業後、5年間保存
⑩情報共有	保護者の意思による（情報共有を推奨）	保護者の同意が必要

⑪ 情報共有の範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者 ・ 保護者を通じて、親族等 ・ 保護者を通じて、所属機関（幼稚園、保育園所、小学校、児童発達支援、放課後等デイサービス、児童館等）、医療機関等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者 ・ 所属機関（小学校・中学校・高校・特別支援学校） ・ 保護者を通じて、放課後等デイサービスや医療機関等
⑫ 開始年度	平成 19(2007)年度（令和 3 年度改訂）	平成 20（2008）年度（令和 4 年度改訂）

○情報連携について

サポートブックとネットワークプランの共通点と相違点を理解した上で、情報連携の仕組みについて検討を進める。

神戸市療育ネットワーク会議「第7回 就学前の発達の気になる子どもの支援体制検討会議」
議事要旨

(日 時) 令和4年11月10日(木) 15:00~17:00

(場 所) 中央区文化センター1001・1002 会議室

○…委員意見・質問 ●…所管部署等の説明 ※いずれも要約

1. 神戸市療育ネットワーク会議「就学前の発達の気になる子どもの支援体制検討会議」について
＜事務局より資料1を用いて、これまでの経過と今回の会議の趣旨について説明＞

2. 就学時のつなぎ・情報連携について

＜事務局より資料2、資料3、資料4、資料5について説明後、質疑応答＞

(1) 個別の就学相談を活用した流れについて

- 外国籍の子どもや保護者など、日本語でのコミュニケーションが不十分な方への配慮について伺いたい。また、保護者自身が、知的発達がゆっくり、ネグレクトなどで子どもへの関心が薄いなど、就学相談のシステムに乗りにくい方への配慮も伺いたい。
- 外国籍の保護者や配慮の必要な方が個別の就学相談会に来所される時は、通訳や支援者の方に同席いただいた。相談時には、教育委員会が保護者から聞き取った情報を入力し、保護者に学校への情報共有について同意の有無を確認した。所属がない子どもの保護者にも就学相談を利用してもらえるよう、関係各所と連携し働きかけていきたい。
- 知的発達をお持ちの保護者や障害のある保護者への合理的配慮はされているのか。また、実際に、障害のある保護者の方からの相談はあったか。
- 耳が聞こえない保護者の方がいた。事前に、通訳を手配できないか保護者から相談を受けていたので、参加された就学説明会と就学相談会に通訳を手配し、個別に対応した。
- まず就学相談に来所することが大事であり、情報を適切に収集し就学先と共有することが必要。保育所や幼稚園での保護者に対しての働きかけについて伺いたい。
- 教育委員会が作成した就学相談のチラシを、私立保育園連盟から全加盟園に周知した。各園からも保護者に周知いただいた。
- 就学先については、幼稚園、保育園、認定こども園などからの提案を保護者が受け入れるには時間を要し苦労もある。大変な課題を抱える保護者の方にとって、開かれた相談システムの構築は非常に大切だと思う。
- 就学相談時に、所属園所での子どもの様子の確認希望はあったのか。
- 所属園所での確認は、希望があれば実施している。特別支援教育相談センターのインクルーシブ教育推進相談員は、元小学校長が務めており、希望を受けた際は、幼稚園(公立・私立)を巡回してお子さんの様子を確認し、その情報を就学先の学校に共有する役割を担っている。
- 以前から、学区内の保育所や幼稚園等と学校が連携し情報共有をしていたが、就学相談については、幼稚園、保育園などから保護者に説明いただいた。最近では、児童発達支援を利用し幼稚園に全く通われていない子どももいるため、児童発達支援事業所からも説明いただいた。

- 保育園や幼稚園の先生方にとって、保護者から進路相談を受けたり、助言をするときの難しさはどういったことか。
- すこやか保育を提案した時点で、保護者から「うちの子は（すこやか保育対象とは）違う」とはっきり言われてしまうと、その後の助言が難しい場合がある。子どもの発達障害を理解されている保護者は、助言を受け入れやすい傾向がある。
- 小学校で混乱したり、友達とうまくやっっていけない子は、幼稚園の生活で見て分かる。インクルーシブ教育推進相談員に子どもの状況を見に来ていただき、就学相談を受けるべきかなど助言や指導を受けている。
- 所属の園所が、就学相談を勧めても相談に繋がりにくい保護者への説明について、園所だけではなく行政でもサポートできる仕組みがあるとよい。また、就学相談時に、園所に相談員が様子を確認した方がよい子どもについて、相談員の確認を後押しする仕組みがあってもよい。

- 就学相談後に、保護者が学校に行かれて相談した際、教育委員会の就学相談と学校での内容が違っていたなどのトラブルはあるのか。
- 今のところ、トラブルや苦情は特にはない。学校の先生からは、就学相談での情報を共有したうえで保護者と話ができるので助かるとの声がある。保護者も教育委員会との相談が終了しており、肩の荷が下りた状況で学校に来るため、相談がスムーズに進む。

- 例年 10 月頃になると医療機関への就学に関する相談が多くあったが、小児科などの医療機関には今回の就学相談の仕組みが浸透していないように思う。お気づきのことがあるか。
- 医療機関には、就学相談の仕組みは周知されていないようなので、医師会を通じた医療機関への周知の協力など、医療機関でできることを考えていきたい。

- 保護者には市の特別支援教育システムをお知らせしたうえで、個人が進路先を選択することになる。神戸市は保護者の意向を大切にしてきたが、最終的には保護者の決定となるのか。
- 最終的には保護者の意見を最大限尊重しながら、学校と相談をして、就学先を決定していくことになる。保護者の意向を大切にすることは、従来と変わっていない。
- 就学相談に行かない保護者についても、所属園所からすべての子どもの要録が就学先へ渡される。要録により学校へ情報が届くシステムになっている。
- 要録は健常児も含め全員作成する。内容は、(支援が必要な部分を含めて)きっちりと書かれているのか。
- 就学先に提出するための要録には、かなり細かく関わり方や難しさなども記載する。学校の先生が直接受け取りに来る場合は、口頭でも補足説明をする。

- 所属園所が勧めても個別の就学相談には至らず、11月の就学時健診時に学校側が気づいた場合はどのような対応になるのか。
- すこやか保育対象の5歳児のうち、就学相談の来所数は約45%であった。11月の就学時健診時などに学校見学の希望があれば、保護者から十分話を聞くように学校へ依頼している。就学相談を受けていない場合、学校からも就学相談の案内をするよう依頼している。
- すこやか保育の中に、知的には境界～正常域でも行動上の問題があり、じっとできない子ども

がいる。このような子どもの場合でも、保護者は通常学級での対応や通級教室など様々なサービスを受けられると期待している。就学前に学校に行った際、通常学級や通級教室の説明を受けられるのか。

●学校でも説明できる。就学説明動画は市ホームページに掲載しており、特別支援学級、通常学級、通級指導教室などの情報もある。動画はいつでも自由に閲覧できる。

○兵庫県と神戸市の仕組みは異なるが、お気づきの点はあるか。

○これまで神戸市は保護者と小学校が直接交渉する形だったので、就学相談のシステムができたことは良い。また、就学相談に来られる子どもは医療機関を受診している方も多くいると考えられるが、どれくらいいるのか。

●医療機関の受診数ではないが、個別の就学相談を利用者のうち、診断や障害手帳がない方が約4分の1。それ以外の方は何らかの診断や手帳がある。約半数が障害手帳の所持があった。

○発達障害を中心に話をしているが、医療的ケアや肢体不自由も同様に就学相談を受けている。今年4月に就学相談の仕組みができ、これから各学校で受け入れる。この仕組みを保護者がどう感じ、どう評価しているのか。来年4月に入学し、これまでとは違う仕組みでの対応はどうだったのかも教えていただきたい。就学に関する情報を得て地域の学校に入学しても、保護者が認識していた内容と異なっていては困るので伺いたい。

●新しい日本型の学校教育の一つに、就学後にも柔軟に学びの場の変更を考えられるという、日本型インクルーシブ教育があり、特別支援教育相談センターの教育相談がその機能をもつ。本日ご意見があったように、就学前に「うちの子は大丈夫」と言われる保護者は必ずいる。就学後に課題がある場合は、通常学級を選択した保護者の責任にするのではなく、特別支援教育相談センターが対応し、お子さんの様子を見て、必要に応じて保護者とも相談し、子どもにあった学びの選択肢を助言する。目先のことだけではなく、将来的なことも示しながら、柔軟に学びの場を変更していく。特別支援教育相談センターができたので、新1年生入学後も子どもに合った学びの場を提供していかなければならない。

○学校の先生が特別支援学級に通う方に、療育手帳の取得を勧めたり、療育手帳の所持が原則であるかのような説明をしているケースがある。療育手帳はサービスを受ける個人の希望によるので、十分ご留意願いたい。これまでは、学校の情報がよく分からずに入学された方もいたので、新しい仕組みをうまく生かして、より良いものにしていただきたい。

○学童保育や放課後等デイサービスとの情報共有や、要録を学童保育等が共有できる仕組みがあれば助かる。今後の展開としてご検討いただきたい。

○関係機関には、年明け早々に就学相談の仕組みをアナウンスすれば、今年利用された方の口コミもあり周知できる。

○特別支援教育相談センターの教育相談の相談対象に、私立幼稚園・保育園、認定こども園は入らないのか。

●教育相談の対象は小学校以上で、今年度から5歳児の就学相談ということで始めている。

○神戸市立幼稚園のみ、教育相談の対象ということか。

●市立幼稚園は、特別支援教育課にいる区担当指導主事が園支援で訪問する流れとなっている。

○今後、拡大していく予定はあるのか。

- 市立の幼稚園は統合保育で様々な幼児を受け入れており、区担当主事が園に対して指導助言を行っている。就学前の多様な機関への拡大は、現状では人員的に難しい。
- 教育相談の申し込み方法について、学校から申し込む場合は保護者の了解は必要か。また、保護者がセンターに直接相談を申し込むときには、学校の了解は必要か。
- 学校と保護者が連携をした上で特別支援教育相談センターを利用することが最も効果的であることは言うまでもないが、保護者の同意なく学校から依頼を受ける場合もある。保護者からの電話相談時に、学校との連携確認を取り、学校より教育相談を申し込んでもらう場合もある。

2. 神戸市の発達の気になる子どもの相談支援体制について

＜事務局より資料6、資料7について説明後、質疑応答及び委員による意見交換＞

- 発達障害に関しては、就学前はこども家庭局、就学後・学齢期は神戸市教育委員会、成人期は福祉局発達障害者支援センターが中心になって対応している。各年齢期のつながりは互いが共有している。

これまで神戸市では、乳幼児健診をはじめ、各種関係機関とこども家庭センター・療育センターとの役割分担の整理・周知、相談支援の課題などに取り組んできた。市内の医療機関でも発達に課題を持つ子どもに対してサポートや診断をしていただくことを考えている。

保護者は、医療だけではなく療育や心理検査を一緒に求める場合がある。一方で、医療機関には放課後等デイサービスや児童発達支援事業所などの情報が十分に周知されていない。福祉サービスの情報が確実に伝わっていけば、福祉と医療機関がお互いに協働しながら、障害をもつ子どもを地域で支えられる。これまで神戸市は相談支援が脆弱であると言ってきたが、今回、発達支援を実施している福祉サービス事業所の情報を積極的に集め、市において障害児通所支援事業所ガイドを作成された。

- 障害児通所支援事業所数が非常に多く、各事業所の特徴や情報は、今まで自分で足を運び見て、情報を得ていく状況だった。障害児通所支援事業所ガイドがあると、情報提供が非常にしやすい。
- 以前、兵庫県の小児科医会でアンケート調査を実施したところ、福祉情報が医療側にほとんど入ってこず、事業所の場所・活動内容・職員の資格・提供サービスなどが分からないので、医療機関と福祉サービスが結びつきにくいとの指摘があった。障害児通所支援事業所ガイドなどを利用し、地域で医療と福祉サービスが一体となって支援できればと考えている。
- 発達障害は、医療機関だけではなく社会的に、地域で対応していくべき。各区に医師会があるので、各区の小児科やかかりつけ医も参加していただき、福祉サービス事業所や保健・福祉などの多職種と一緒に考える場（例えば協議会）が必要と思う。

○保育所や幼稚園でも、障害児通所支援事業所と並行通園している方も多いが、配慮はどうか。

○（すこやか保育について）障害児通所支援事業所と情報交換等をしながらか、並行通園している。きこえとことばの教室（通級指導教室）が利用できないため、並行利用できるよい。

○通級指導教室の指導者が園に来て、子どもの見解を述べるときに、園側が把握している実際の現状と大きくかけ離れている場合があり戸惑うことがある。

○専門家が現場園所の先生の状況を理解していないと、助言内容と実状にズレが生じてしまい、

現場の先生は意見を述べることを控えてしまう傾向がある。幼稚園、保育所、認定こども園の保育者は、子どもの姿を集団の中で見ている。保育者も専門家であり、専門家と対等に話ができる関係性であるとよい。

○保育園などに密着して支援し助言する方を増やすことが大事。助言する側の研修も必要。

○児童発達支援や放課後等デイサービスなどの事業所は急速に増え、質のばらつきがある。昨年度、厚生労働省からの報告では、通常の預かりと変わらない事業所や塾と変わらない事業所があるとされる。質の高い事業所を残していくためには、地域のネットワークの中で評価していくよい。県立こども発達支援センターでは、療育の導入や支援方法を提示後、県内各地域に返し、地域を巡回されているがいかがか。

○県立こども発達支援センターの療育終了後の送り先となる通所支援事業がどのようなことを行っているかは分からないのが現状。障害児通所支援事業所ガイドがあると助かる。

○神戸市内の通所支援事業所で発達検査を実施している所はあるのか。

●児童発達支援や放課後等デイサービスで、独自に心理士を置いている事業所はあるが、必置でないため全てを把握していない。

○発達検査の結果がある程度分れば、対応できるという声は医療機関に多くあるが、心理検査や発達検査が可能な機関では長い待機期間がある。福祉サービス利用のための発達検査と、療育手帳発行などの発達検査の棲み分けなどあるとよい。

○発達の相談や診察が可能な医療機関の情報を掲載されているが、数が少ない。障害児通所支援事業所ガイドには、放課後等デイサービスの掲載が多数あるが、各事業所の違いや内容が分かりにくい。学校や区役所の窓口などで情報提供できる仕組みがあると、保護者にとって分かりやすい。

○学校などの関係者も含め、地域で情報交換できるネットワークが築かれることが非常に大切。相談支援機関の役割・機能に関する広報・周知について、関係機関へ説明をお願いしたい。

○神戸市の場合、こども家庭センターと療育センターの役割が分かりにくい。療育センターで相談・検査を受けた子どもの中で正常域の割合が増えている。地域の中で、療育センターに通うほどではない子の相談や支援ができればよい。

○不安を感じている人の不安の内容は様々である。情報発信だけではなく、疑問や不安などを拾い上げて、その内容から答えや情報にアクセスしやすいよう整理できるのではないか。

○Q&Aを市ホームページに掲載するのも一つの方法。インターネット上には、非常に多くの情報があり、どれが信頼に値するものなのか分かりにくい。

○相談したい内容から相談先へ分かりやすく繋がるように整理し、相談先での相談方法が分かるようにしていただきたい。

○子どもの発達に関する相談内容にどこまで対応できるかが課題。児童発達支援センターは、相談機能を併せ持っているが、(通所支援で)手一杯になっているのが現状。各区の相談支援事業所で子どもの相談件数を増やせるのか。

○神戸市が委託している相談支援事業所は、市内19か所。子どもの相談もあるが、大人の相談

件数が圧倒的に多い状況。子どもの相談は、多問題で複雑なケースが多い印象がある。相談員の相談力を高める必要がある。神戸市障害者基幹相談支援センターの取り組みとして、県の法定初任者研修修了者を対象にファーストレベルの研修を実施している。

相談支援事業所が増えない理由は、神戸圏域での法定研修の受講者は毎年50名程度いるが、相談支援事業所数は増えていない。今年度、基幹センター主催のファーストレベルの研修への参加数は14名と、法定初任者研修修了者（昨年度40名前後）の半数も満たない厳しい現状がある。

- 子どもの相談支援は、大人への支援であるケアマネジャーより、専門家の人材育成と維持が大変だと聞く。一方で、最初に直接相談を受けるのは、保育園や幼稚園の先生が多いが、研修事業などはあるのか。
- 私立幼稚園では特別支援に関する研修があり、時間が許す限り職員は全員受講する。専門の先生から教えていただくが、現場で活かすのはなかなか難しい。適切な指導が頭で分かっているも、適時適切な対応は難しい。
- 私立保育園連盟では、障害児委員会があり研修等を担っている。もう一つキャリアアップがあり、保育士の処遇改善のために国の補助金を受けている。その条件として障害児に関して学ぶ時間がある。保護者からの相談対応と障害児への関わり方の研修を実施している。
- インクルーシブが推進されているが、保育所、幼稚園では子どもの発達に関して経験の浅い職員が多くなり、支援が要るのか否かの判断が非常に難しくなっている現状がある。研修等で知識を得ていても、実践対応の難しさを感じている。課題に対する客観的な判断基準があれば、要支援である子どもに気づくことができる。
- 幼稚園や保育所では、目の前にいる子どもの支援はよく分かるが、就学後の支援が見えにくい。就学後のライフステージに応じた支援状況を知ること、今いる在園所で、将来を見据えた支援ができやすくなる。具体的には、幼稚園や保育所で発達が気になる子について、小学校につないだ後の経過、将来、小・中・高でどのような過程を経たのか、ケースを共有するような事例検討や勉強会の機会があるとよい。
- 療育センターの立場では、重い症状の子どもに対して早期にサポートをし、その家族にも子どもとの関わりを学んでいただきたい。明らかな障害はないが発達が気になる子どもが通える場所として児童発達支援などの利用や、かかりつけ医に最初の受皿になっていただくなど、地域の中で見守っていけるネットワークが築けないかと考える。
- 児童発達支援などのネットワークに加え、保育園や幼稚園、認定こども園でも踏み込んだ相談を受けられることも大事になると思う。
- 保護者が安心して相談するためには、保護者と相談先の支援者がお互いに顔の見える関係であるということが大切。システムだけではなく、顔の見える関係で安心して相談ができ、支援につなぐコーディネーター、軸になるところがあるといい。

神戸市療育ネットワーク会議／就学前の発達のご案内になる子どもの支援体制検討会議（概要）

1. 趣 旨

本市では、就学前における障害児等の支援を、各区役所、こども家庭センター、療育センター、保育所・幼稚園等の他、通級指導教室、民間の児童発達支援事業所などが連携して重層的に実施している。一方で、関係機関のそれぞれの役割分担や、障害の早期発見から支援までの流れが市民及び支援者にとってわかりにくくなっていること等が課題となっている。

そこで、就学前の発達のご案内になる子ども（*）の支援にかかる現状の課題の整理やニーズの把握を行うとともに、関係機関及び行政担当者等による意見交換や情報共有を通じて、より良い支援体制について検討し、支援の充実を図るため、検討会議を開催する。

なお、この会議は「神戸市療育ネットワーク会議」開催要綱にもとづく施策検討会議として位置付けるものとする。

*「発達のご案内になる子ども」の考え方

日常生活や集団での活動において個別の発達支援を必要とする子ども（医師の診断の有無や障害者手帳の交付の有無を問わない）とする。

2. 委員（令和4年度）

※五十音順・敬称略

委員	兵庫教育大学大学院 教授	井澤 信三
	神戸市障害者基幹相談支援センター 相談支援主任／統括コーディネーター	伊藤 則正
	神戸女子大学 教授	植戸 貴子
	兵庫県立こども発達支援センター長	大橋 玉基
	神戸市医師会 公衆衛生担当理事	越智 深
	神戸大学 名誉教授／神戸市総合療育センター診療担当部長 ※会長	高田 哲
	社会福祉法人神戸 YMCA 福社会 発達支援事業統括	谷川 尚
	神戸市私立幼稚園連盟 副理事長	綱本 慎一
	神戸市私立保育園連盟 理事	橋本 大介
	関西学院大学 名誉教授	日浦 直美
	兵庫県 LD 親の会たつの子 副代表	三島 佳世子

行政関係者	こども家庭局副局長	大石 和広
	こども家庭局母子保健担当課長	丸山 佳子
	こども家庭局医務担当課長	三品 浩基
	こども家庭局発達支援調整担当課長	土井 信忠
	こども家庭局総合療育センター相談診療担当課長	西田 いづみ
	こども家庭局幼保事業課長	立石 智久
	こども家庭局指導研修担当課長	下西 由佳
	こども家庭局こども家庭センター発達相談・判定指導担当課長	吉岡 真理
	福祉局障害者支援課長	奥谷 由貴子
	福祉局発達障害者支援担当課長	岡本 和久
	教育委員会事務局特別支援教育課長	上野 昌稔
	教育委員会事務局特別支援教育相談センター担当課長	津田 朋厚
	兵庫区保健福祉課長	石田 明稔

3. 実施状況

第1回：令和2年 2月 13日	第2回：令和2年 7月 28日
第3回：令和2年 12月 17日	第4回：令和3年 3月 25日
第5回：令和3年 7月 29日	第6回：令和3年 12月 16日
第7回：令和4年 11月 10日	第8回：令和5年 3月 9日

神戸市療育ネットワーク会議
「就学前の発達の気になる子どもの支援体制検討会議」について

【検討課題】

- (1) 相談窓口
 - ① 整理・役割分担の明確化
 - ② 受付から相談までの待機期間の短縮
 - ③ 小学校入学へのつなぎ

- (2) 支援の充実
 - ① 支援する側にもされる側にも分かりやすい情報内容の整理
 - ② 行政機関だけでなく、医療機関と障害児相談支援事業所等とが連携して支援

- (3) 情報共有
 - ① 就学時の支援情報の提供
 - ② 支援情報の一元管理・システム化

【実施状況】

	実施日	議題
第1回	R2. 2. 13	検討課題、神戸市における発達の気になる子どもの支援体制、神戸市の乳幼児健診、就学前の発達支援体制検討にかかる実態調査
第2回	R2. 7. 28	神戸市の発達相談の現状、相談窓口の整理・役割分担の明確化
第3回	R2. 12. 17	こども家庭センター調査、こうべ学びの支援センター 神戸市の発達相談支援体制
第4回	R3. 3. 25	神戸市の発達の気になる子どもの相談支援体制(役割・機能の整理) 就学時のつなぎ・情報連携
第5回	R3. 7. 29	就学相談、就学先への情報共有
第6回	R3. 12. 16	神戸市の発達の気になる子どもの相談支援体制(市 HP「子どもの発達に関する相談」) 就学時のつなぎ・情報連携(就学相談、ネットワークプラン) サポートブック
第7回	R4. 11. 10	就学時のつなぎ・情報連携(特別支援教育相談センター、個別の就学相談を活用した情報の流れ) 神戸市の発達の気になる子どもの相談支援体制(相談支援機関の広報、支援の流れ)
第8回	R5. 3. 9	神戸市の発達の気になる子どもの相談支援体制(発達相談支援体制の充実)、サポートブックとネットワークプラン